

### 1 自己評価及び外部評価結果 ユニット2丁目

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉邦人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370500779&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370500779&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田園に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており24時間連絡が取れバックアップ体制が取れている。又2ユニット間の連携も取れやすく行事、活動が行いやすい。毎月のバスハイクや母体特養でのバイキング食などに参加して頂くことで楽しみや生活空間の拡大を図っている。利用者の重度化に伴い利用者間のいたわり合いや助け合いなど利用者が自然に暮らしやすいよう雰囲気づくりに努めている。花壇の手入れや、ユニット合同でのプランター野菜づくりに挑戦し、収穫を楽しみにし食材としても利用している。防災訓練での地域住民の協力参加、連絡網の整備を図った。利用者は食事づくりや片づけ等に積極的に参加している。

前回の外部評価を受け、「目標達成計画」を立て実現に向けて管理者と職員が一体となって取り組んでいる。目標は、ほぼ達成されており、今後の更なる取り組み(質の向上)に期待される。地域との交流もよく行われ、老人会や子供会、花と緑の会等との交流も定着化されてきている。ボランティアの受け入れも、よく行われ利用者の意向に沿った関係づくりにも取組まれている。事業所の生活の様子は、広報「共に」で紹介されており、利用者が元気に楽しく暮らしていることが分かる。運営推進会議においては、利用者の生活状態や外部評価後の取り組みなどについて報告されており、会議で議論されたことを運営に活かすようにしている。ホーム内は、明るく静かで、テレビを見ている人、窓越しに花壇の花を眺めている人、利用者同士で会話が交わされている等、のんびりと過ごされている姿が印象的であった。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく尊厳ある安心した生活を送っていただく事を理念にかかげ、日々念頭に置きケアに従事している。玄関やリビングに理念を貼りだしている。朝ミーティングで唱和し理念の共有を図っている。	開所時から全職員で話し合っ決めて理念であるが毎年、年度初めに理念を検討し、支援のあり方について話し合われている。朝のミーティングで唱和し、ホールの目に付く場所に貼って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	志戸平地区子供会やボランティア団体の協力を得て、廃品回収、お菓子作りやゲーム等を通し、利用者と地域の方々との交流を行っている。	地区の子供会や老人会、各ボランティア団体との交流を持ちながら、花づくりや野菜づくり・手工芸・おやつ作りなどに取り組んでいる。また、日常的には、散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。年3回カラー印刷した広報「共に」を、利用者の家族や役所関係・商店・学校等に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体施設の大谷荘職員と一緒に研修に参加し、認知症ケアの啓発に努めている。地域の方々に広報を配布しプライバシーを守りながら、認知症介護について説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごと運営推進会議を行い、現状報告、今後の取り組みについて説明し、意見や要望をいただいている。意見、要望、改善点はスタッフ内で話し合いを行い、実践に繋げている。	家族会代表や地区代表、市職員、包括支援センター職員が委員となり奇数月に会議を開催している。利用者の生活状況や目標達成計画に基づいた取り組み状況等について報告し、助言を頂いている。それらをミーティング等で話し合い、ケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市役所から参加して頂いており、ホームの状況等説明を行っている。指導、意見をいただき、サービスの質の向上に繋げている。生保の担当者は定期的な面会を有、情報提供している。	日常的には、担当職員に広報や電話などで事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を構築するよう努めている。また、担当職員や包括支援センター職員は、推進会議に出席いただき、現状を見てもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケアを行う」という事を事業所としてかかげている。研修、勉強会を通し、身体拘束を学び、ケアを実践している。利用者の意志を抑制しないよう利用者の安全を確認した上で、自由な生活環境を整える様、努めている。	外部研修で学んできたことの報告を手本にししながら、身体拘束をしないケアについての勉強会を行っている。報告と合わせて職員が実際に車椅子に長時間座ったり抑制帯を使用してみたりと疑似体験をしながら学んでいる。「待つて」等という言葉の拘束をなくす方策についても話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、関連法について学び、日頃の業務の中で虐待に繋がらない様に、各ユニット毎に、虐待、拘束防止担当者を置き、細心の注意を払っている。虐待に繋がる可能性のある事例の際はすぐにスタッフ内で話し合いを行い、防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおたに(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度と権利擁護について外部研修を行い、得られた知識を内部学習にて職員全員が共有できる様にしている。包括支援センター職員を講師として制度についても研修会を行い学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前、入所後に必要な説明を行っている。面会時、家族会でも家族の意見を聞く機会を設けている事で、いつでも説明できる環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内にご意見箱の設置をしている。電話や来訪時、管理者や職員に直接意見や苦情を出しやすき雰囲気になっている。朝ミーティングにて意見、要望、苦情について話し合い、業務に反映させている。	家族へは、利用者の生活の様子や行事について報告し、アンケート等でご意見をいただいている。家族会を開き、要望を聞いている。電話や訪問時に話しかけ、何でも話してもらえるような雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング時職員の思いや意見を聞き取るようにしている。さらに職員の声や表情等から悩みや思いを察するようにしているほか、事前アンケートを行い、業務改善検討会にて検討し改善につなげている。	毎朝開くミーティングや毎月開く職員会議、個人面談、アンケートなどで意見や要望を出してもらい、改善につなげるように努めている。掃除の時間帯や野菜の栽培方法、年間計画の作成などについて改善されている。	管理者は職員の質を向上させるために研修に力をいれたいと考えている。外部研修への参加や内部研修の充実や、事業所の質を一層高めるために、職員の意見や気付きを集約して実践し、実績を積み上げていかれること期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体施設の防災安全委員会に参加し、労働環境について話し合いを行い、より良い職場環境になる様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加している。内部学習においても年間計画をたて、担当者を中心に研鑽に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会、岩手県GH協会花北ブロックGH定例会に参加し、交流に努めている。他施設との交換研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、自宅の訪問を多くし、ホームも見学して頂き、表情・会話から本人の思いを知るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、家族の困っている立場になり、介護状況を知り、要望を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とされているサービスであるか、サービス内容を知り、本人の望みに合ったものであるか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩として尊重し、できない事、できる事を知り、共に支え合っていく姿勢で取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には「またいらして下さい」、行事があれば「いらして下さい」と声掛けをしている。離れて暮らしている家族の場合手紙を書き、職員がパイプの役割をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前の美容院や近隣の方の面会など気軽に来られるようにしたり、訪問して下さるようお願いしている。	知人が訪れ、ウッドデッキで会話を楽しんだり、家族が毎月のように自宅に連れて行く機会を作っている。住んでいた地区のひな祭りを見に行ったり等もなされている。ドライブで利用者の部落を廻ってきたり、馴染みの理容店に行く利用者もいる等、それぞれの意向に沿える支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションの場に入れない利用者には、話題提供したり、レクリエーションを取り入れたりする等のきっかけ作りをしている。言い合いをしている利用者には仲介役になっている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大谷荘へ入所された方へは時に面会したり、行事等で再開した時は、声掛けや挨拶など積極的に行っている。家族に再開することもあり、関係性を継続するようにしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険の無いよう十分に注意しながら、本人の希望に沿った生活になるよう支援している。帰宅願望の強い方は、夕方一緒に外へ出かけゴミ捨て等を役目として気分転換になるようにしている。家族に電話をしたい方にはその都度応じている。	利用者の担当者を決めており、センター方式を採用し、利用者と話したこと、利用者や接する中で気付いたこと、また、家族から聞いたことなどの記録を取りながら、思いの把握に努めている。困難な場合は、ご家族から聞いたり、どちらがいいかという選択式で選んでもらう等の工夫に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時に、本人や家族に伺い、個別調査を行っている。入所後は援助計画を作成し、職員全員が周知するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や介護日誌、水分排泄チェック表、連絡ノート等を把握し、職員間の連絡をとり、支援している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時、介護職員、管理者計画担当者と話し合い、ケア計画を立て家族に意見要望を伺っている。	理念に沿った支援方針をベースとして、定期的に職員全員でモニタリングを行い、新たなプランを作っている。家族には毎月説明を行い、意見をいただいている。遠くの家族には郵送し、ケアプランに対する同意の有無や意見を記入してもらっている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、家族連絡、職員連絡、医療ノートを個別的に記録し、情報の共有をし、気づき工夫を取り入れ見直しや実践を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて通院介助や物品購入代行を行っている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元駐在所、消防民生委員、ボランティア地域子供会と交流する機会を設け、利用者が安心して暮らせるよう支援している。消防立会いの防災訓練や地元消防団による点検、ボランティアとの花壇整備やおやつ作り、レクリエーションを行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に日常生活情報や記録を提供しながら、家族と協力し、毎月の受診につなげている。本人家族の希望でホームの協力医にかかりつけ医を変えた方もいる。歯科通院では職員が付き添って受診している。	本人や家族の望むかかりつけ医にかかっている。入居後、協力医に変えられた方もいる。家族が受診に付き添うことが原則であるが、家族の状態に応じて、通院支援等が行われている。かかりつけ医とは利用者の状況を報告し、連携を図っている。協力医の往診も受けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医務室と連携して利用者の健康管理や医療機関受診の支援を24時間受けられるようになっている。必要に応じ相談指示を貰っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院との情報交換や相談に努め、早期に退院できるよう協力している。入院中にも面会を行い、励ましや安心して治療できるよう支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人家族に確認し、書面に残し、職員間で統一した支援ができるようにチームで取り組んでいる。又重度化の場合は併設の特養へ入所する方が多いので特養の担当職員と連携を取り情報の共有に努めている。	本人や家族には、入居時に重度化の状態になった時は、併設の特養に入所出来ることを説明している。入浴が出来なくなったら、グループホームでの生活は難しいと考えている。食事の摂り方については、「にぎにぎ体操」で箸が使用出来るようになった事例もあり、日々の取り組みに力を入れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修会を実施し、職員間でマニュアルの確認を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、日中、夜間を想定した防災非難訓練をしている。消防参加の非難訓練、大谷荘職員地域住民」の応援訓練を実施し、防災教育を受けている。非常食についても災害時に備え、備蓄し、管理している。	消防署職員や地元の協力者が参加し行う訓練と、事業所単独で行う訓練を合わせて5回行っている。119番通報すると地域の協力員まで連絡がいく体制になっている。今回の地震(3.11)では、停電が3日間続いたが、備蓄食品もあり地域との協力体制もあったことから大事に至らなかった。	地域の方に参加してもらった防災体制作りに取り組んでいる。今後も訓練等を積み重ねる中で、安心して避難できる体制作りに取り組まれることを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保や個人情報の保護について勉強会を行い、法令遵守に努めるよう職員一人一人自覚を持ち行動している。利用者に対し言葉使いや羞恥心に配慮した対応ができていますか職員全員で話し合い人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない支援を行っている。	利用者のお部屋に入る場合には声がけをするようにしている。食べこぼしの片付けを行う際には、了解を得てから行うなど、利用者の返事を待たずに職員が勝手に動かないようにしている。常に「人生の先輩」であることを意識しながら尊敬の心を持って、支援することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛け伺いをし意志表示できるようにしている。日常生活の中で本人の希望を聞き利用者を理解したうえで自己決定できるよう支援している。バイキングや選択食では好みの食事を選択したり誕生日には主食の好みを聞き提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた支援を行っている。個々の体調に合わせて本人の希望に沿って部屋で過ごしたり寝たりゆったりとしたペースで過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の行きつけの店に行ったり、ホームに来てもらっている。季節を感じるような声掛けをしながら、その日の服装を本人が決めるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの献立表で毎日お知らせしている。苦手な食べ物は代替や調理方法をかえて対応している。ホームの庭で野菜を栽培し、水やりや収穫を利用者で行ったり山菜を収穫したり、季節の食材を楽しんでもらっている。	ホームの周辺にある落や、しその葉など採ってきたり、ホームで栽培したトマトやなす、きゅうり等を調理し、「食の楽しみ」に繋げている。メニューは、職員が作成しており、利用者の好みを聞いたり、行事に合わせた食事を作るように努めている。食事の準備や片付け、食器の拭き方など利用者が出来ることをやっていただくよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立のもと栄養バランスに気をつけながら一人一人に合った量にしている。食事摂取量5段階で記録している。チェック表で水分摂取量、排泄状況が分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は研修会で口腔ケアの重要性をよく理解し声掛けや見守り介助などで毎食後利用者に合わせた支援を行っている。舌ブラッシングも行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(2丁目)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所時紙パンツ使用していたが、排泄パターンとトイレ誘導により、トイレでの排泄ができ、支援を継続している。	オムツを使用している利用者はおらず、リハビリパンツや尿とりパットを利用しながらトイレでの排泄を行っている。排泄の時間や、水分摂取の状態を記録した排泄チェック表を活用しながら、声がけをし、基本的にトイレでの排泄支援に取り組んでいる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分チェック表を見る事や、排泄に繋がる食品(乳製品、ゼリー)を摂取し、又、医師との相談で便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる利用者にはタイミングや入浴日を変更する事で清潔保持に努めている。	日曜日を除き、毎日午後を入浴の時間とし、入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる方には、時間をずらしたり、タイミングをみて、誘いを掛けるようにしている。本人のペースに合わせながら臨機応変に対応されている。職員は、浴室内での介助と衣類の着脱と分担しながら、二人体制で入浴支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活する中での食事、入浴以外に対しては、自由に過ごせる時間をとり、就寝中に部屋の温度管理、水分補給を行っている。日中は歩行訓練や散歩、日光浴等個人個人実施し安眠につなげている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法、用量を理解し、体調変化は連絡ノートを活用し、職員に引継ぎ、様子観察重視し、主治医との連携をとり指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、個々のできる事(草取り、食器洗い、洗濯物量み等)を見極め、手伝って頂く事で、喜びと自信を持って頂ける様、支援を行っている。外出時に気分転換をすると共に、買い物等で好きなものを買ってきている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩で、近隣の農家の人との会話、バスハイク、郷里訪問でなじみの場所に行く事で、気分が高揚し、楽しみとなっている。家族の協力により、通院、美容院、ドライブ、外食等、気軽に外出できる支援を行っている。	毎月、バスハイクが予定されている。7月には、ゆり園やバラ園に、来月には水沢の「輪投げ大会」に出かける予定が組まれている。併設の施設で行われる演芸慰問にも希望者は参加している。天気の良い日には、近所に散歩に出かけている。外出は、家族へも一緒に参加していただけるよう呼びかけも行っている。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が難しい利用者からは預かったり外出時は使いきれの金額を家族から事前に預かり利用者に渡している。また、希望があるときやバスバイク等のレクリエーションの際にはスーパー等に立ち寄り好きな食べ物を購入できるように支援している。個々の能力状態に応じ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話・手紙・小包などですぐに本人へ取り次ぐようにしている。家族への手紙を書く際も付き添いを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や利用者の状態に合わせて、利用者と一緒に模様替えを行っている。四季折々の風景を楽しめる間取りとなっておりまた食堂からはキッチンの様子も見え、利用者と一緒に調理を楽しめる環境も整っている。毎日の掃除で清潔を保ち居心地の良い空間にしている。	採光がよく、静かな空間に利用者が思い思いに、のんびりと過ごされている。2畳ほどの畳の間が移動が出来、うまく活用されている。色々な花鉢や手芸作品が部屋に飾られ、お庭の花壇には赤や黄色の花が咲いている。居間の隣には広いベランダがあり、お天気のよい日にはみんなでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳で新聞を読んだり、ソファに座りテレビを見たりと個々に過ごせる環境を整えている。天気の良い日はウッドデッキを散歩しながら外の景色空気を楽しめる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を頂き、本人のなじみの品を持参してもらい落ち着いた環境作りに努めている。居室内の装飾は本人の好み、性格に合わせ、行事、イベントの写真、誕生カードを利用者の目線で掲示している。	テレビ、ラジオ、カラオケ、いす、筆筒が持ち込まれている。また、湯飲みやコーヒーセット、箸なども家で使用していたものを持ってきていただいている。本人や家族と機会がある毎に、居室の使い方について話し合いを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや各居室の名札を大きめに作成しわかりやすい様工夫している。自分で認識できるように顔写真を掲示している。		